

①タイトル（事業名等）

A コープ空き店舗を再利用～住民の‘声’から生まれた『わいわいルーム』

②社協名 高山市社会福祉協議会

③連携先 <当初>住民：JA ひだ たすけあい組織「山びこの会」、住民：児童支援団体「22会」、JA ひだ ふれあい課/宮支店、一之宮まちづくり協議会、民生児童委員、行政（一之宮支所）、社協（地域福祉課/包括） <現在>上記他、であい塾、教育委員会、長寿会、乳幼児学級、サロン団体、デザイン会社、民間の店舗、隣町住民

④取組のプロセス（活動をはじめたきっかけや目的など）

それまで地域の拠り所であったA コープが閉店されたことへの‘さみしさ’もあり、住民の「シャッターを開けたい」、そして「もう一度拠点にしたい」という想いを各関係者と共に住民主体の拠点になるよう取り組んだ

⑤取組内容（活動の内容、対象者、場所（対象エリア）、
時期・時間、連携先の役割など）

①ミニデイサービス（食事つきサロン）：月1回、②弁当販売/配食サービス：月1回、③サロン（CM 麻雀、ソーイングの会他）：各月2回、④乳幼児学級：月1回、夏休み中の小学生サロン等。月に平均8日解放。それぞれ主の対象者はあるが、多世代協働もあり、どなたでも対象者

⑥活動の効果（関わった人からの反応、課題やこれからの予定など）

わいわいルームに足を運ぶだけでも楽しんでみえ、その楽しみが仕掛け側の住民の楽しみであることを確認できた。またその両者をみられることが関係者の満足度となっている。さらに現在は住民団体に触発され関わる方々が町内外問わず増えてきている。コロナ禍でも活動。課題は来られない方々の支援や小中学生が常時参画できる仕掛けづくり

⑦写真・チラシ等（活動の様子がわかる写真・周知チラシなど）



ミニデイ



わいわいルーム



弁当/配食



わいわい農園(乳幼児含む)



CM 麻雀サロン(他各種)

